



トップ > 福井 > 11月30日の記事一覧 > 記事

福井

ツイート 0 | チェック | おすすめ 0 | G+ 0

2015年11月30日

若狭町、人口増へ対策に懸命 空き家情報公開や町内結婚式応援

増えよ、町民一。人口減少に悩む若狭町が対策に懸命だ。空き家情報を公開して新たな定住者確保に努め、若い世代向けには「ふるさとウエディング応援事業」も。町は「なんとしても減少を抑えたい」と、町の存続を賭けた戦いに取り組んでいる。

町によると、二〇一〇年に一万六千百人の人口は、六〇年には八千三百人に、五十年で半減する見込みだ。このため町は、六〇年になっても一万人を確保することを目標に掲げた。

空き家情報の公開は、一一年度から始めた。町民から聞き込んだ情報を紙面にまとめ、県外で宣伝するほか、インターネット上でも見ることができるようにした。大手の不動産業者が扱わない情報だ。入居前には、近所との面談に町職員も立ち会う。入居希望者が改修を行う場合は、最大百万円の補助もする。

これまで公開した五十三件のうち、約半数の二十五件が契約された。その中で町外出身者が入居したのは十五件。豊かな自然の中で育児をするために移住してきた家族連れのほか、町内で二年間の農業研修を行っている「かみなか農楽舎」を卒業し、町内で就職を希望する人の選択肢にもなっている。

同農楽舎卒業生の島光毅（まこと）さん（36）＝岐阜県出身＝は「家探しにツテがあるわけでもないし、地域との信頼関係もまだできてない。町が間に入ってくれて暮らしやすくなった」と振り返る。

若狭町空き家情報 N4

若狭町が冊子にして公開している空き家情報の一例



地域から祝福される「ふるさとウエディング」に笑みを浮かべる新郎と新婦＝3月29日、若狭町末野で

一方、ふるさとウエディングは、地域の風習や食材、名所などを生かし、近隣住民を含む多くの人に披露する結婚式。町は、町内でこうした結婚式を行う男女に三十万円を助成している。地域をPRすることで活性化させ、また結婚を身近に感じてもらうことで未婚・晩婚化を防ぐのが狙いだ。

昨年度は一組だったが、想定よりも問い合わせが多かったことから、本年度は予算を四組分に増やし、一九年度までに累計で二十組をゴールインさせる目標だ。

本年度の一組目は、「恋人の聖地」とされるレインボーライン山頂公園を舞台と選んだ。同公園での結婚式は初で、経営会社のレインボーラインは「今後は、ホテルと協力して、ホームページなどで利用を呼び掛けていきたい」と歓迎す

る。町は、ほかにも分譲住宅地の販売、若者専用住宅の入居補助など幅広い策を講じる。「移住する人がいれば、その家族も増える可能性がある。どの世代もサポートできるようにしたい」と全力を挙げる考えだ。

(米田怜央)